

泉 いずみ

―目次―

表紙「蓮の新芽」

「コラム百折不撓」住職

連載「ハヤブサ物語17」

教え子に教えられ

ハザード会報告・マップ配布

連載「共に生きる⑤」

真の観光とは

さとのりの知恵を読む26 「アジャセ王物語2」

掲示板・お知らせなど

付録「びゅうあいさい」



ちから満つ 新芽につなぐ 命かな 博子

今年の春は少し早かったのか、桜が咲くのがいつもの時期より早い気が。娘が春休み後半に、屋台で焼きそばとお好み焼きを買って、公園の桜の木の下で、シートを敷いて、桜吹雪で飛んでくる桜の花びらも一緒に食べてしまいながら、一年で一度しかない桜の時期を満喫しました。昨年は、コロナの猛威の真っ只中で、自粛自粛の日々なのが思い出されます。と懐かしむ暇もなく、一年経っても相変わらずコロナの感染爆発。ウィズコロナ(≒マスクコロナ)とは言いつつも、心も体も疲れてしまいますね。

つい先日、吉本興業の芸人のチャリー浜がお亡くなりになったと報道されていました。久ぶりにお名前を聞き、懐かしさとチャリー浜は何十年前も前に「よしもと新喜劇」を見ながら、よく真似をしていたのを思い出しました。周りの友達はみんな「ごめんくさい。こりやまた臭い」とか真似してましたね。チャリー浜の多くのギャグの中に、「君たちがいて、僕がいる」というギャグがあります。とは言っても、言葉で書いても、とてもギャグとは思えない言葉ですが、お笑い芸人が言うと言えらるんですね。

「君たちがいて、僕がいる」は、仏教でいうと、不思議なご縁という感じでしょうか。命の繋がりを考えさせられます。

「これある故にかれあり、これ起る故に、かれ起る、これ無き故にかれ無く、これ滅するが故にかれ滅す」というお釈迦様の言葉があります。よく「これ」を卵、「かれ」を鶏に例えて考えると、分かりやすいと言われます。卵があるから鶏が存在する。鶏が存在するから卵が存在する。どちらかが滅すれば、何も存在しない。ということです。

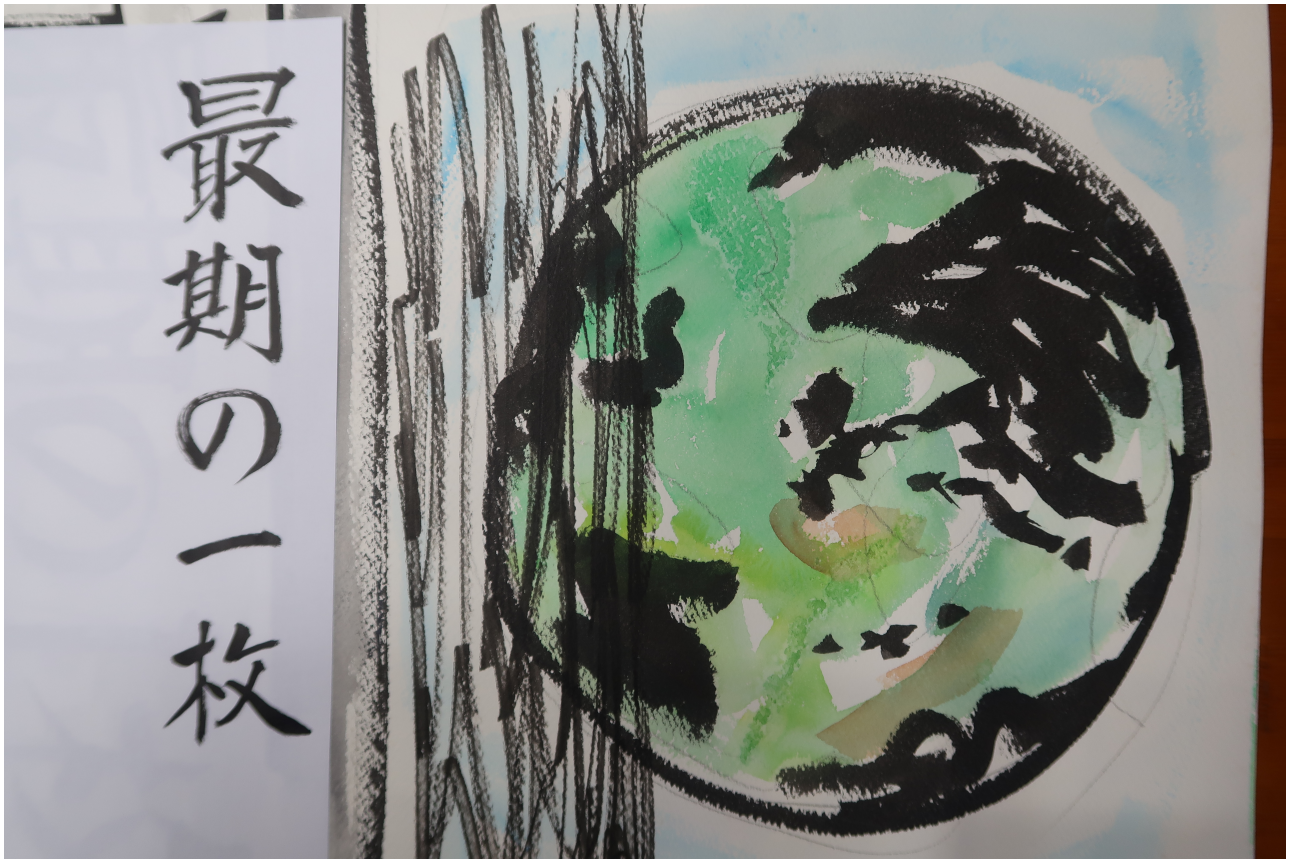
生きていくということは、命が親から繋がれた証拠です。その親は、そのまた親から命のバトンが繋がれたということです。10代さかのぼると、命のバトンは一〇二四人、20代さかのぼると一〇四万八五七六人、30代前には何と一〇億人を超える命が私の命に繋がれたということになります。もはや天文学的な数字になると同時に、今生きていくことは天文学的な数字で分かるように奇跡としか言いようがありません。

普段忙しく生活をしていると、なかなかそのような考えに思いを寄せることはありませんが、こうしてふとした時に命の繋がりがや、家族や友人、職場の仲間などとの出会いの「縁」は、やはり不思議なこと以外に表現が見つかりません。30代前だけでもご先祖さまが一〇億人を超え、もっと遡れば数えきれない命があったからこそ、今の私がいて、その命が一人でも欠けていけば、私の命は無かったのかと思うと、本当に「君たちがいて、僕がいる」というギャグが深い意味を感じさせてくれます。

本来であれば、命の繋がりに出遇い、今の命に出遭う場である、春季永代経(四月二十九日)をコロナの状況を鑑みて、昨年と同様に内勤めと変更をしました。御参拝の予定をされていた方々、お手伝いくださる予定であった方々には急な変更に対して、深くお詫び申し上げます。しかし、中止ではなく、住職・老僧にてお勤めを致します。

この状況下で、昨年度は春季も秋季も永代経は内勤めであり、今年度こそと思いいました。断腸の思いでの判断とさせていただきました。

秋季永代経につきましても、コロナの状況を見ながら、ギリギリまで予定通り行う予定で進めてまいります。よろしくお願い申し上げます。



◆ JAXAのスタッフたちは、僕がいよいよ地球に戻れると確信してから、最後に僕ができる仕事をさせようとした。◆ 「はやぶさに故郷の地球を見せてやりたい。」それはどういうことかと言うと、僕が持っているデジタルカメラの眼を地球に向けて、一枚の写真を撮ることだった。◆ 僕は色々角度を変えて、地球の姿がファインダーの枠に入るように努力した。やっと最後の一枚が地球を捉えた。◆ しかし、上の写真の左側に縦の線が入って見づらくなっているのがお分りだろうか。◆ なぜかというのと、大気圏に突入して体が摩擦熱で燃え始めたからだ！ でも僕は全ての仕事を果たし、最高の幸福感に包まれた！

(続く)

◆四月のはじめに教え子が子どもと共に遊びに来た。一人っ子の孫の小蓮は遊んでもらえる友達を心待ちにしていた。たっぷり遊んでお風呂も一緒に入り、ご満悦だった。◆久しぶりにお泊りで来たので、ゆっくり酒を飲みながら話をした。◆在学中から頑張り屋で、弱音を吐かず、クラスのこと尽力するやりの生徒だった。◆しかし、彼女の生い立ちが壮絶だった。韓国人の父と日本人の母を持ち、両親は相次いで二人の子を残し、出奔した。二人は父方の叔母の家族に引き取られ育てられた。◆私の勤務する高校に入学し、三年生の時に彼女の担任となった。家庭環境をものともせず、二人の姉妹は正義感と誠実な心を持ち続けて成長した。恐らく叔母が親身になって養育したと思われる。◆ある時、40度の発熱をしていたにも関わらず、テストを受けたいと電話がかかってきた。私は送迎し、保健室に放り込んで受験をさせた。何とその科目の試験は彼女の今までの最高点だった。◆在学中、首に包帯をして登校した時があった。首をひねったと本人は言っていたが、愚かな私は気づかなかった。◆彼氏と結婚したかったのに、国籍のことで相手の親の猛反対にあり、自殺未遂を起こした。それが首の包帯だったのだ……◆時は数十年を経て、五十に手が届く彼女は結婚し、日本国籍を得て、

四人の子どもに恵まれ、小さな刺繍の会社を夫と共に経営するかたわら、学童保育所を立ち上げ、理事長となっている。◆上の二人の子は社会人となって仕事に就き、中学生と小学生の子どもを頑張って育てている。◆ストレスが溜まると、時々安泉寺に来てはお泊りし、リラクゼーションして帰っていく。お寺が癒しの場所になっていくことは何よりも嬉しい。◆彼女が最近スマホデビューした私に、色々と使い方を教えてくれた。ほいほいと画面を触りまくり、私が絶対に出来ないこともすいすいとこなしていく。後でやろうとしても私にはできない。◆悔しいかな、私は次のような狂歌を詠んで大うけした。

教え子に、スマホの操作教えられ、ダメな生徒ネと、復讐された

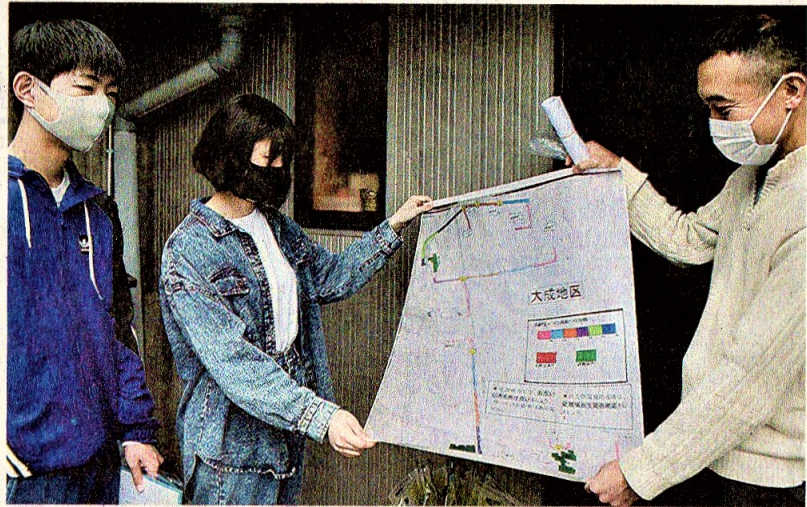


◆教師として残すものは何もない私だが、一つだけ誇りに思うのは、私を頼ってくれる教え子がいるということだ。真剣に向きあった分、真剣にお返しをしていく。教師冥利とはこの事かなと時々思う。

2021.4.5 中日 朝刊 尾張版

手作り防災マップ配布

愛西の中高生ら 三和町の全50世帯へ



住民にハザードマップを手渡す子どもたち＝愛西市三和町で

愛西市三和町の安泉寺を拠点に、地域のハザードマップ作りを進めてきた市内在住の中高生らが四日、同町の全約五十世帯を巡り、住民にマップを手渡した。マップは、一年ほどかけて手書きで作成。市指定の避難所が町内にないため、住民の許可を得た上で独自の避難所に決めた住宅を明

記したほか、高齢者が避難するのにかかる時間を示したり、ブロック塀のある危険場所を明示したりした。この日は五人が参加し、雨の中を約一時間かけて配布。東日本大震災で被災した宮城県女川町を二〇一九年に訪れ、マップ作りに参加した高校一年、宮田侑奈さん（五）は「被災者の体験

談を聞き、防災の重要性を実感した。マップを使って愛西市の人も意識を高めてほしい」と願った。

マップ作りをサポートしてきた同寺の前住職野呂美道さん（七）は「子どもたちが自主的に行っている活動を将来につなげてほしい」と話した。
（猿渡健留）

◆新聞記事にあるように、無事ハザードマップは完成し、三和町の各家庭に配布された。雨の中、二手に分かれて数人がしてあったので、待っていてくださった家庭が多かった。「ご苦労さん、頑張ったね！」「よくやってくれました！」などの励ましの言葉を聞くと、作ってよかったと思う。◆そもそもは最初に

被災地に連れて行った中学生たちから「地域のハザードマップを作りたい。」と申し出があったのだ。しかし、「そりゃあいいことだ。」と放っておいたのでは事は進展しなかった。◆私たち大人が子ども達と知恵を出し合ってサポートした。地域の古老たちに昔の話を聞きたいというので、彼らに声をかけて集まってもらった。実際に測量したり、現地を見たいということで、フィールドワークを行った。◆白地図を作るためにゼリンの住宅地図のデジタル版を購入して、各戸の名前入りの地図を子どもたちは作った。◆測量した情報を細かく地図に落とし込んで、見やすくするために色分けで避難経路の所要時間を明記した。◆わずかな時間を何ヶ月も重ねながらやっと完成した。次の目標は子ども達で決める。被災地にも行きたい。コロナの収束が待たれる。マップはこの地区にするのか。防災施設の訪問や、講師を呼んでのレクチュアも受けたい。◆子どもたちに寄り添って彼らの針路をサポートしようと思う。

◆「故郷の家」の竣工式の時、ある在日コリアンの方よりこんなことを言われた。「韓国の子なんだと思つたら、なんだ日本人じゃないか！ これからは勝手に韓国人ぶるんじゃない！」彼は「両方名乗つたらどうでしょう。」とその人に提案する。それ以降彼の名刺には両方の名前が印刷された。彼は最初の言葉を繰り返す。「50%、50%が入っている。ハーフじゃなくて、ダブルだよ！」彼はこの言葉によつて大変勇気づけられた。◆妻の文江さんとは、彼女が28才の時、養護施設で知り合った。文江さんは長いこと環境の違いでプレッシャーを受けて、後ろ向きな生活態度をとるようになってしまった。時には自殺を考えた。夫（彼）は文江さんに言った。「あなたは死ぬるからまだいいよ。私は殺されても死ねないよ。」文江さんは夫の言葉で、目が覚めた。「環境のせいにするのは私の甘え。お互いに違うことを認め、その生活を続けよう。」こう決心した。

◆この夫婦は愛情の事ではもめていないが、ものの運び方は違っている。違いを認めたいえで夫婦をやつていく。違いを認め、違いが恵みだと思ふとき、国際感覚が養われるのだ！◆「共に生きる」とは、いっしょのことを同時にすることではなくて、他を認めながら生きて行く事だと彼は力説する。◆「故郷の家」の空き地に、彼は「人間とは何か？」を考へることのヒントになることを期待して、それにふさわしい庭造りを目標にしている。（完）

老僧より感謝をこめて
◆ご愛読ありがとうございます。次回より西村滋講演録「私の出会った神様たち」を連載いたします。平成元年、私が奉職していた高校のPTA記念講演のテープ起こし原稿です。西村滋のプロフィールについては次回に紹介します。◆直接話を聞いていない私でしたが、毎回テープ起こしの作業をする中で、涙が止まらなかつたことを記憶しています。三十年以上前の話ですが、きっと皆様に感動していただけたことと思ひます。ご期待ください。



◆付録として観光協会で作った「びゅーあいさい」を見てほしい。愛西市観光協会の一理事として私見を述べたい。◆「観光」とは文字通りそこに光を見るときという意味だ。初めから光るものはない。原石を磨き上げて、ダイヤモンドに仕上げるのは**住民の力**である。◆「愛西市には観光になるものは何もない。」という理事がいた。誤解も甚だしい。冊子を見れば、魅力的な愛西の姿が見えてくる。◆先日こんなことがあった。蓮根掘りの現場を見たいと、はるばる春日井から俳句サークルの人達が、佐屋駅から数キロ歩いて道の駅に来た。そこから更に数キロ歩いて清水食品を紹介してもらったついでに近くの安泉寺を訪れた。◆私は愛西のことを色々と宣伝し、妻は一行を道の駅まで話をしながら車で送っていた。◆後日、リーダーから達筆な礼状が届いた。道の駅で買い物をして帰ろうとしたら、近くのお百姓さんから掘りたての里芋と、零余子（むかご）を頂いたそうだ。その日の夕食は愛西尽くしだったらしい。◆以前、新城の観光協会を訪ねた時に、職員がこんなことを言っていた。「イベントで人を集める事ばかりやると、スタッフが疲弊する。イベントをこなすだけでは、いずれ観光は立ち行かなくなる。そうではなくて、**観光は三六五日毎日が勝負だ**ということ。つまり、イベントで人を集めるのではなく、地域の人達がいかに訪問者に温かく接するかを考えるべきだ。」◆観光で見事に蘇った市町がある。木曾路の奈良井宿。ここは、街並みも古いが、すべての住民がお客を実に感動的にもてなす。例えば

カメラを構えると、住民はそっと微笑んでモデルになってくれる。住民が奈良井宿を誇りに思い、お客に接している。だから、暖かいもてなしを受けた客は必ず友人を誘いリピーターになる。◆つまり、観光協会ばかりが重荷を背負ってはダメなんだ。心を込めてお客をもてなすように住民に働きかけるのも協会の大切な使命だろう。◆蓮の花が咲いた頃、春日井の俳句サークルの皆さんはきつと再来するだろう。再会を大切に、楽しみに待っていたい。◆磨くべき愛西の光は沢山ある。「蓮の花・レンコン・開門への観光船・輪中の暮らし・織田信長にまつわる史跡・そして暖かな人々のおもてなし等……。」私たち愛西に暮らす住民が、「とても良い町だよ。」と胸を張って言えるなら、それが最高の観光資源と言えるだろう。



先月号の要旨

◆マガダ国の王舎城の城主アジャセはあらゆる悪の権化となり、父を幽閉し殺害、母もとらえて牢獄に閉じ込めた。報いを受けて病を受け、日々苦しむ時に、大きな懺悔の心を起こし、医師のギバや母のイダイケ、亡き父のピンピサーラの勧めにより、釈尊のもとを訪ねた。釈尊はアジャセの苦しみを自分も同罪と受けとめ、慚愧の心を慈悲の心へと転化させた。そしてアジャセはどんな苦悩を受けても後悔しないというさとの心を起こした。

◎苦悩の中で慈悲の心にふれる

◆人生には、悲しい出来事や思いもよらない不幸に出あうことがあります。◆そしてそれがきっかけとなり、今まで知らなかった自分の姿に気づいたり、周囲の人たちの優しさにふれることによって、生き方が変わってくることがあります。◆この物語の主人公アジャセ王は、自己の欲望の満足のため、父のピンピサーラ王まで殺害して一国の王としての権力を手にしましたが、父親殺しは地獄に堕ちて苦しむという教えを耳にしたとたん、はじめて自分のしたことに基づき、身も心も蝕まれて、深い苦悩の中に突き落とされます。◆

みずからの行いを後悔するアジャセに救いの手を差しのべたのは、両親とギバとブツダです。この四人にはアジャセに対する共通した態度がうかがえます。それは、苦悩する人間と真摯に向きあい、受容と共感をもって接する態度です。◆仏教では、このように人を思いやり、ともに悩むことを慈悲行といえます。この慈悲の心によって、アジャセの心はしだいに柔らかくなつてゆきました。◆母のイダイケは、孤独と絶望の中にひとり残された我が子を最後まで見捨てることなく看病しつづけました。◆また、医師のギバは、アジャセが抱いた慚愧の心こそが人として最も大切なものであると伝えます。「慚」とは自分をかえりみて恥ずかしく思うこととであり、「愧」とは他人に対して恥じることです。そして、ブツダの教えを聞き、道を求めることを勧めます。◆そして、ブツダに会うことを躊躇するアジャセに会いに行くよう勧めたのは、わが子に殺されてもなおわが子に行く末を案じる亡き父でした。

◎アジャセとは誰なのか

◆なき父の声に恐れを抱き悶絶するアジャセを見たブツダは、「アジャセのために涅槃に入らない」と言います。つまり、アジャセのように、

癒されることのないような苦しみをもって生きるすべての人びとが救われるまで、自分もさとりの世界には入らないというのです。◆そして、責められるのを覚悟で訪れたアジャセに対して、ブツダはやさしく語りかけます。◆「あなたが犯した罪の原因は、その縁をつくったわたしにもある。だから、あなたの罪はわたしの罪でもある。」そう説いたのです。◆このブツダの深い慈悲の心は、父を殺した罪とその報いへの恐怖におびえるアジャセを変えてゆきました。苦悩していたアジャセは自分が1人ではないと気づきます。そして、ブツダに救われたアジャセに、「他人の幸せを願う」という今までなかった心が生まれてきました。◆それは自己中心的な欲望で生きてきたアジャセに、他人のために生きる慈悲の心が生じる、という大きな心の転換があったことを意味します。◆そして、ブツダの教えに生きる人間がまたひとり誕生したということでもあります。◆さて、この自己中心的なアジャセとはいったい誰のことでしょうか。実はアジャセという人物は、単なる物語の登場人物なのではありません。アジャセの姿は、わたしたち自身の姿でもあるのです。◆わたしたち一人ひとりが、「自分こそがアジャセである」と気づくところに、この物語のもうひとつのメッセージがあるのです。



五月の行事予定

ハザード会 九日(日) 十時
 文芸クラブ 十三日(木) 十時

今月の掲示板

思い込みは捨てよ
 思い付きは拾え

ある寺院の掲示板にあった言葉です。思い込んだことはなかなか改まらないし、せっかいいいことを思いついても、「無理だろうなあ」と捨ててしまう私です。

訃報

堀田 としさん 長島町 享年百才

お知らせ

◆付録として、愛西市観光協会発行の冊子を付けます。ご縁のある方にご紹介下さい。

編集後記

◆コロナ禍の中、永代経は内勤めに変更します。誠に残念です。第四波がこれほど早くしかも強く来ることは想定外でした。皆さんに参詣してもらおう事を楽しみに準備を進めてきましたが、青空があることを固く信じて、未来に希望を託します。(老僧)

◆先日、ご縁があり職場近くのモスクへ行きました。ムスリム協会の宣教師(住職)は同じ職場で働く同僚です。日本人より日本のことが詳しく、多くの宗教にも熱心に学んでおられる姿勢に私の浅はかさを反省する機会になりました。

◆Kさんからの絵手紙です。

